

年間授業計画（シラバス）

| | | | | | | |
|---------|--|---------------------------------|------------------------------------|---|----------------------------------|----|
| 教科・科目 | 国語・国語表現 | | 単位数 | 2単位 | 履修学年 | 3年 |
| 目標 | 国語を適切に表現するために、基礎的な語彙の習得・表現能力を養い、伝え合う力を向上させる。国語を通じて思考力及び心情を豊かにし、他者への感情移入ができる能力を育む。また、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てる。 | | | | | |
| 使用教材 | 使用教科書 国語表現 改訂版 三省堂 | | | | | |
| 評価の観点 | (関心・意欲・態度) | (話す・聞く能力) | (書く能力) | (読む能力) | (知識・理解) | |
| | 目的や場面に応じて、魅力ある表現にする意欲を評価する。 | 表現力を吟味しながら、他者を尊重して話す・聞くことを評価する。 | 目的や場面に応じて言葉遣いや文体を吟味し、推敲できることを評価する。 | 文章の内容を叙述に即して的確に読み取る。要約問題で評価する。 | 語句や語彙の成立について理解し、言語表現・社会について理解する。 | |
| 評価方法 | 定期考査および、各単元ごとの小テストを実施する。提出物・プレゼンテーション・参加意欲を、評価する。 | | | | | |
| 学期 | 学習内容 | | | 学習のねらい | | |
| 1 | <p>「わたし」のことを語る</p> <p>新聞に投書してみよう</p> <p>佐佐木信綱顕彰会応募作品の作成</p> | | | <ul style="list-style-type: none"> ・自分に関する事柄・自分の考えを客観的に把握する。 ・他の人の意見を聞き、自らの考えを深め、表現活動に役立てる。 ・新聞の投書欄に掲載された文章の内容や表現について学ぶ。印象に残った投書の一つを選び、内容を整理する。何について書くかを考え、留意点にしたがって投書を書く。（提出させ、評価する。） ・顕彰会に応募するための作品をつくる。提出された作品については、成績に反映させる。 | | |
| 2 | <p>ディベートを楽しもう</p> <p>ことばを見つめる</p> <p>俳句コンテスト（三重県主催）の応募作品作成</p> | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ディベートを通して、討論に参加する際の基本的な姿勢を学習し、討論することの楽しさを知る。 ・異なる立場の相手に自分の意見をわかってもらうために、判断の理由や根拠を明確にすることと、相手の意見をよく聞くことの大切さを学ぶ。 ・日常使用している「ことば」を自覚的に見直し、「ことば」に対する意識を高める。 ・資料やデータの扱い方・読み取り方を学ぶ。 ・提出された俳句は、提出物として評価し、その後、三重県の俳句コンクールに応募する。 | | |
| 3 | <p>この本読んでみて！</p> <p>表現を豊かにする</p> | | | <ul style="list-style-type: none"> ・読書意欲を喚起し、本に対する興味・関心を持つ。 ・他の人にその本を読んでみようという気にさせる紹介文の書き方を考える。 ・本を紹介する表現活動や相互評価を通じて、自分を見つめ自らのものとのとらえ方を自覚する。 ・『伊曾保物語』の「蟻と蟻とのこと」、『イソップ物語』の「セミとアリ」、佐野洋子「ありときりぎりす」を読み、それぞれの表現上の特徴や、表現しようとしている内容について考察をめぐらす。 | | |
| 学習上の留意点 | 各学期に定期考査を行う。また、適宜小テストを行い、単元ごとの理解を確認させ必要に応じて再テストを行い、定着をはかる。スピーチや討議を行い、他者との差異を理解しながら自らが話すことが出来るよう、練習し、意欲や態度も評価する。 | | | | | |